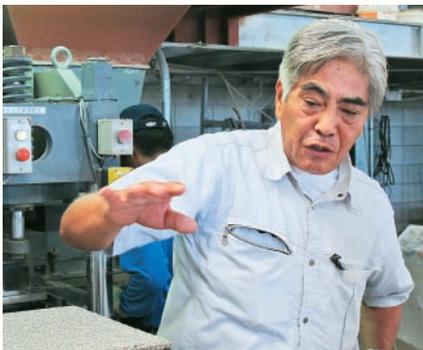


(株)ストーンワークス



会社概要

事業内容 シラス緑化基盤・シラストイル・シラスブロック製造販売
 設 立 平成15年7月
 (株式会社へ組織変更)
 代表者 代表取締役社長 上中誠
 従業員数 12名



▼会社を案内していただいた上中誠社長



▲市電線路に敷き詰められた緑化基盤材 全長13kmに向けて工事が進んでいます。



▲自動プレスマシン 一枚ずつ出来上がっていきます。

鹿児島市内に行くど路面電車が芝生の上を走る姿がひととき目を引きまします。新幹線全線開通も目前に控え、鹿児島中央駅に降り立つ観光客は、桜島より真つ先に目に入るのがこの緑化の帯ではないでしょうか。

この緑化基盤材を製作・販売する(株)ストーンワークスにお邪魔しました。

同社は、昭和52年に左官業を営む上中工務店としてスタート。平成2年に九州一円に人造大理石製造販売を行なう(株)ストーンワークスを設立後、公共事業などの低迷や、社会情勢の変化に対応するため、『シラスを使ったエコ製品』の開発に着手し、現在に至っています。

平成11年に、鹿児島県工業技術センター(袖山研一研究員)との共同研究でシラス(火山の火砕流堆積物)とセメントを混ぜ、圧縮することにより、緑化基盤材の製造に成功しました。水は基本的に使わずに、シラス自体に含まれる水分でシラスとセメントを自動プレスマシんで固めます。

混ぜて固めるだけと簡単に思ってしまうますが、この押し固める速度、強度に想像を絶する苦労や秘密が隠されているのだそうです。

この緑化基盤材により、シラスが持つ『粒子が細かい』『含水率が高い』『比重が小さい』などの欠点を利点に変えること

ができるようになりました。

現在、屋上、公園、歩道などに使われ、緑化自体の目的のほか、ヒートアイランド現象の緩和や、騒音軽減効果もあるといわれ、都市部からも注目されています。

今年に入り、従来の基盤材より1回り大きい雨水貯留向けのブロックの開発に成功し、各地で猛威を振うゲリラ豪雨対策にも期待できるとしています。

上中社長は、今年6月に設立した『大崎ものづくりネットワーク振興会』の初代会長として、町内の異業種企業が持つ技術を集結し、地域資源を活用した新たな「ものづくり」に挑戦しています。



▲中小企業庁長官賞をはじめ、数々の賞を受賞されています。



▲工場には出荷前の緑化基盤材が並びます。